

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270401302
法人名	社会福祉法人 寿光会
事業所名	グループホーム 恵
所在地	〒854-0121 長崎県諫早市有喜町593番地2 (電話) 0957-28-0955

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年10月2日	評価確定日	平成20年10月10日

## 【情報提供票より】(平成20年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7 人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人
非常勤	0 人
常勤換算	7 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有( 円)	有りの場合	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年 4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.2 歳	最低	70 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 和光会 恵寿病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

諫早市中心部から車で程近い郊外、緑と海に囲まれるように在るのが『いさはや うき福祉村』である。介護老人ホーム、関連法人医療機関、保育園などいくつもの施設が高台の広大な敷地に広がる、その中の特別養護老人ホームの姉妹施設としてあらゆるニーズに対応すべく三年前に開設されたのが、当ホームである。ホーム周辺もさることながら、建物も広々と快適である。居室棟の部分は木材をふんだんに利用し、村内の周辺施設とは少し異なる家庭的な温かさがたどよい、玄関ホールを入ると、書に造詣の深い代表者による作品と、ホーム内の書道教室で楽しむ利用者の作品が迎えるように飾られている。母体法人の長年の様々なノウハウの蓄積と、『福祉村』という環境における医療をはじめとする連携は、利用者と家族に大きな安心と信頼をもたらしている。基盤が整いつつある三年目であり、今後は地域交流、更なるケアの質の向上へ向けて、村外へも活動の幅を広げていかれることに期待できるホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを管理者が作成し、その改善計画の下に職員全員で取り組んだ。検討中又は改善へ向けて継続中の事案に真摯に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で取り組むことを念頭において、管理者があらかじめ骨子を記入し、会議の際に職員に回覧し気づきをあげて補足したり、意見を出してもらうという方法で取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容とそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年度は第1回が7月に開催され、以降次回予定は12月となっており、4,5ヶ月に1回の会議開催である。会議には家族代表、行政代表以外に、地域代表、知見を有する者として施設関係者、他に事業所代表として管理者が参加している。会議の内容は活動と利用者の状況報告の他に、ターミナルケア、外部評価、利用料、室内リフォームなどに質疑応答がなされている。ホームのモニター役として、地域交流の促進の場として今後大いに会議を活用していかれることに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項説明書に苦情処理体制と相談窓口を明記し、玄関には意見箱を設置することで意見聴取の取り組みに対する姿勢を示している。口頭で伝えられることはあまり少なく、意見箱にも投書はないため行事の機会を利用して、家族に無記名アンケートを実施、協力いただいた。
重点項目	福祉村内の施設とは交流や連携はあるが、地元の中心部から少し離れており、高台の上にある福祉村からは住宅地も道を隔てている地理的条件もあって、地域とのふれあいは少ない。地域密着を意識して今後は地域との交流に前向きに、情報を求めていく取り組みに期待したい。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「助け合い、信頼しあって、日常生活をおくります」という理念は3年前の開設時に職員全員で考えたものである。ケアの中心としてきたこの文言はそのままに、地域密着型サービスとしての取り組みのスローガンとなるような言葉を簡潔に加え、実践に努める方向を今後探っていくとしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の言葉は事業所内の目に付くところに掲示されており、職員もよく認知している。その理念の実践を日々のケアの中で意識することを忘れないようにと努めている。職員の異動により、理念の解釈についても個々において様々な発見もあり、地域密着を加えて今後の統一された見解と実践を努めていきたいとしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	福祉村として、法人内の施設とは交流、連携も多いが、町の中心部から少し離れ、近い住宅地とも国道を隔てている、一つのコミュニティとしての地理的条件から、地域との交流はあまり多くない。地域の活動や行事に参加したい希望はあるが情報収集には至っていない。		福祉村内で行事参加、連携などが充実できるが故に、本当の地元、地域に対して活動を広げる取り組みに至らない点もあるため、まずは情報収集に積極的な取り組みを期待したい。最も近隣の自治会組織の長を尋ねあて、地域活動の様子を教えていただくなどの試みや、運営推進会議にて地元住民に相談、意見をうかがうなど出来ることから始められることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には出来るだけ全員で取り組むことを目指し、あらかじめ評価項目に管理者が骨子となる文案を記述したものを、1ヶ月に1回の会議で全員で回覧、確認した。その上で気づき、追加を挙げて書き込んでもらうようにした。改善計画シートを作成し、評価により気づいた点に取り組んだ。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回の目標としていたが、今年度は第1回が7月に開催されたのみで次回予定は12月ということであり、4～5ヶ月に1度となっている。会議メンバーは家族代表、行政代表職員に、地域住民代表と知見を有する者としては施設関係者が参加している。会議内容は、活動や利用者の状況報告の他、介護認定、終末ケア、利用料についてなど様々な質疑応答がなされている。		会議開催の回数に関しては、基準省令にあるように概ね2ヶ月に1回を目指されることが望ましい。地域との付き合いを課題に挙げている中で、新たな参加メンバーの選択を一考されたりと交流促進に結びつくような、会議の活用に期待したい。

グループホーム 恵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、報告や相談の機会を市担当者となるべくもつよう努めることで、連携を図るよう取り組んでいる。顔なじみとなることで情報収集のメリットもあり、時に市担当者から事業所として協力を要請されたりの関係作りができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の機会に口頭で利用者の近況報告は行っている。多い方では週に1,2回来られており、変化があったり必要と判断される場合は電話にて報告している。年4回季刊のホーム通信は美しい表紙、楽しいレイアウトと共に写真で活動の様子がよく伝えてあり、ホーム内リフォームや職員異動などの記事も掲載されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情処理体制と相談窓口を明記し、玄関には苦情箱を設置することで意見聴取の取り組みに対する姿勢を示している。苦情箱への投書はなかなか無いために、年に1回、敬老会の際の家族交流会において無記名によるアンケート実施にも取り組んだ。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して2年は職員の異動はなかったが、今年4月に退職に伴う異動と10月に法人内の定期異動が初めてあった。利用者のダメージに配慮する為、職員間のコミュニケーションを図り、情報の共有に努めて、新しい体制において落ち着きと馴染みの関係を築きつつある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内職員研修は年間計画がたてられており、内容がニーズに沿ったものを選択して受けている。5月に救急車出動要請の事例があり、必要性を感じて10月には救急救命の講習会参加を必須として予定している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会においては管理者も役職を担い、積極的に取り組んでいる。3月には開設時に参考とし管理者が研修を通じて知った他町の事業所で、二日間、職員2名が施設実習の体験をした。重度化、終末期のケアの実践を目の当たりにし、学ぶことが多く有意義な研修となった。11月にも協議会メンバーの事業所にて同様の研修を予定されており学びの姿勢において意欲的である。		

グループホーム 恵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者、家族共に、見学や面接を通じて納得された上でのサービス開始としているが、ホームに馴染んでいただくまでには夜間の外出を望まれた事例もあり、家族と職員間での情報交換による連携によって行動を理解し、対応することで徐々に落ち着いていかれた。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家事活動を共にする場面も多い為、利用者から人生の先達、生活者として培った知恵を頂くことがある。料理の味加減や、食材の扱い方、切り方など職員は学ぶことも多くある。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人、家族からの聞き取り、担当職員の気づきなどをセンター方式にてまとめて、特徴をよく捉えた似顔絵と全体像と共に『その人像』を作成している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>改善計画に沿って、本人、家族の意向を反映したケアプラン作成を検討課題とし、本人の聞き取りが困難な場合においては担当者会議において課題、意見を出し合い作成に努めている。しかし、家族との話し合いは十分ではなく、計画作成担当者と担当職員による作成となっている。</p>		<p>家族も意見をもってチームによるプラン作成を望まれている場合も当然配慮し、家族との話し合いの場を設ける働きかけがより必要かと思われる。また、職員異動による情報共有とケアの統一、非常時の持ち出しまでを考慮して、個人記録等のファイリングの工夫が望ましい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回の会議において、担当職員並びに他の職員と見直しにおいて検討を図り、定期的な期間にとらわれることなく、臨機応変な対応に努めている。</p>		

グループホーム 恵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉村内にある多岐にわたる施設との連携がある。病院による医療連携、姉妹施設である特別養護施設の作業療法士による指導、他併設施設でのデイサービス、ショートステイなど選択肢が広い中で様々な支援が可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	福祉村内の隣接病院において対応、受診されている。月2回の定期健康診断も同病院により実施され、検診記録もなされている。変化などあられた場合は必ず電話にて家族に報告し、他のかかりつけ医への受診は家族の協力もお願いしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに重度化、終末期に対する事例はないが、開設して三年がたち、三月に同業者の施設研修で体験したことから重度化、終末期への取り組みのあり方、方針を確認する時期と感じている。医療行為のことを考慮し連携があるため、ターミナルケアは福祉村内の関連法人の病院で対応する方針である。		法人内の特別養護施設、関連法人の病院と情報交換を行いつつ、重度化や終末期医療に対するホームの方向性を職員との話し合いのもとに決定し、指針として文書に整備されることが望ましい。その指針のもとに家族と話し合い意思確認書の作成が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護、重要書類の管理については配慮されている。日々のケアにおいて、利用者のバックグラウンドの情報やその時の状態にあわせて尊厳を損ねることがないように配慮して対応に努めている。同業者との交流の機会などに改めて日常の言葉かけを振り返り、共に暮らす者として馴れ合いにより親しすぎる表現になっていないかを考えることもあった。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴のおおよその1日の流れはあるが、食後の様子を見ても、出来る範囲での役割に早速にいそまれる方やゆったりとそのまま席で寛がれる方と、思い思いの自由な様子が窺えた。		

グループホーム 恵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者それぞれのペースで食事をされることをさりげなく見守り、介助、会話をしながら共に同じ食卓で食事を摂ることがなされている。可能な方は食後にさっと下膳、片付けに入れ、台所では食器洗いを任されてきびきびとされている様子は、一家の主婦を思い起こされ、出来ることは積極的に取り組んで頂くとする支援がうかがえた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスで使われていた浴室の為、浴槽も2つあり脱衣所も広い。家庭用サイズの浴槽のみ現在使用しているが、大きいほうの浴槽は今後を見据えるとリフトなどの設備の導入も検討可能である。入浴を拒まれる場合は、清潔保持に留意しつつ言葉かけや家族にも相談しながら無理強いすることのないよう配慮して支援をおこなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	週1度の書道教室には3名の利用者が意欲的に参加されており、その作品は居室内や玄関ホールに展示し、また市の福祉作品展にも出品された。広い居間を利用してのレクリエーションで風船バレーなどを楽しんだり、隣接施設でのコンサートなどの楽しみごともある。利用者それぞれが生活歴を活かし残存能力を発揮されて、洗濯物たたみや食事の準備、後片付けをされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自宅へ帰りたいと言われた利用者には同行したり、外へ散歩に出られたい気持ちを示された時は随時本人の希望に沿うよう支援している。訪問調査時にも、芝生があり、海も眺められる広い福祉村内を職員と利用者がゆったりと散歩しておられた。花見、外食会、福祉コンサートなど計画しての揃っての外出も楽しんでいただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠されることはなく開放されている。玄関受付に安全確保の為のセンサーによるチャイムを設置しているが、利用者が外出される場合はさりげない見守りをもって対応している。福祉村内においては、他施設職員の見守りもある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回評価の指摘に基づき、風水害、地震などの天災発生時の対応を確認した。避難、応援体制として福祉村内施設との連携、特に隣接の特別養護施設との応援体制を整えた。ライフラインの確保として福祉村全体の自家発電、地下水をあげている。利用者が把握できる個人記録といった重要持ち出し品への考慮、確認も今後の取り組みとして念頭においている。		

グループホーム 恵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は個人によって尿量、体調など計りながらこまめにお茶や好きな飲み物を勧め摂っていただくようにしている。今年3月の運営推進会議でも利用者の栄養管理についての話が挙がったが、特にしていないという回答であった。		1週間の献立の計画、カロリー計算は特にされておらず、職員が作る献立には栄養の偏りや週のうちに同一メニューがいくつかみられた。法人内、関連法人内の管理栄養士に協力を依頼されて、献立表のチェック、指導を仰ぎ健康管理が食の楽しさと共に提供される取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、台所、浴室部分は、かつてデイサービスで利用していた建物であるため、とても広々としている。その広さを活かし日常味わえる開放感と活動しやすさはもちろん行事の際は余裕をもって対応できる。台所はより利用者が家事に参加できるようにと見守りの点からリフォームした。居室部分は事業所開設に伴い増築されただけに、廊下は広く、洗面所などは使いやすい作りで、廊下突き当たりに置かれたソファは居心地のよい空間である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内に入ると、板張りの壁と木目の天井、そしてかすかに残る木の匂いが、家庭的なやすらぎを与え落ち着いた印象である。備え付けのベッドはあるが、要望があればユニット畳で布団を敷くこともでき、収納用にタンスも置かれている。他に馴染みの家具、調度品、利用者が描かれた絵画などがあり、他に本人の馴染みの品があれば随時持ち込みをお願いするよう、家族に働きかける支援を継続している。		